

平成 22 年度 第 2 回千葉県立博物館協議会 議事録

日時：平成 22 年 12 月 21 日（火） 13：30～15：30

会場：千葉県立中央博物館物館 会議室

参加者：明石委員（議長）、鶴澤委員、大森委員、岡本委員、小野委員、栗原委員、常光委員、水島委員、茂木委員

大熊美術館長、嘉村中央博物館物館長、石井現代産業科学館長

三浦関宿城博物館長、江澤房総のむら館長、上野文化財課長

【会議日程】

- 1 開 会
- 2 博物館あいさつ
- 3 文化財課長あいさつ
- 4 議事
 - （1）平成 22 年度各博物館の地域振興について
 - （2）各博物館の資料収集・保存活動と利活用について
 - （3）美術館の耐震改修工事について
 - （4）その他
- 5 その他
- 6 閉 会

【質疑応答】

- 4 議 事
 - （1）平成 22 年度各博物館の地域振興について

委員：事前の配布資料を拝見すると各館ががんばっていただいている。気になるのは、この資料の表記を見ると、房総のむら以外は、新規事業はほとんどなく、継続事業ということになっている。毎年同じということであれば、少し止めてみて様子を見るとか、別の内容を考えるなどしてはどうか。

文化財課：区分としては継続事業としているが、実際には内容は新しいことを行っているものがほとんどである。

委員：多分そういうことだと思うが、現代産業科学館は具体的に数字が出ているものの、他館は抽象

的な書き方なので、もっと具体的な内容を知りたい。

委員：各館、職員の不足分を他の機関との協働で補っている点は評価できる。また、教員向け研修は続けてほしい。

委員：できれば、各館から自分の館に対する評価や抱えている課題を出してもらったほうが目に見えて分かりやすい。

委員：千葉県立博物館として、今後どういう方針でやっていくのか、ある程度まとめて打ち出していく必要がある。例えば北区の学校では、英語・数学・国語の点数は高く、理科・社会は低いという結果が出ていて、千葉県も同様ではないかと思うのだが、博物館というのはこの辺の理科・社会学習へのでこ入れにも役立てるはず。親子で見学して楽しみ、それが地域社会にも広がっていくのではないか。このような視点から、県立博物館は一丸となってどんな貢献ができるのかというようなことも是非検討してほしい。

委員：房総のむらが成田空港のトランジットの空き時間に体験してもらおうという事業について新聞で紹介されていた記事を読んだ。今回上がってきた地域振興策を見ると空港周辺施設との連携などにも触れていたが、地元企業との連携については、チラシやポスターを配るだけ、というようなやり方ではなく、何か別の方策を考えて、地元のアンテナ的な役割を担って行ってほしい。

委員：現在の経済状況も考えれば、皆さんかなり頑張っている。以前は社会全体が余裕とかゆとりがあったが、今は大変財布の口も堅い時代なので、その中ではよくやっておられるという印象。

委員：個人的にも私自身あまり美術館や博物館に足をむけるゆとりがないくらいである。そのような現実の中で、もっと市町村の各施設に活気があれば、中央にも足が向くのではないか。

委員：酒々井の公民館で県立美術館の移動美術館をやっていたが、酒々井・佐倉周辺の作品が見れて、大変よかった。公民館は、また違う目的で足を運ぶ人が多く、そうした方々に興味を持っていただけという意味でも、大変有効だと思う。

委員：美術館の耐震工事で閉鎖する期間などを利用して、どんどん外に出て行ってはどうか。

委員：私としては、県で「体験推進条例」のようなものを策定してはどうかと思っている。現在は「体験不足」などという言葉が言われるが、もっと千葉県も力を入れるべき。

委員：子供達に体験をさせるというのは大変よいアイデア。ただ、これを学校にもっていくとまた大変なので、子供会など地域のほうに持って行けたらよいのではないか。

委員：例えば、実際に子供さんが集まって来るとなると、保険をかけなきゃいけないとか、色々大変である。私としては、怪我をするのも体験のうち、という位に構えて、ある程度割り切ってやってはどうかと思っている。

委員：移動美術館はあるが、移動博物館というのもできるのでは？

委員：美術館・博物館は、子供達に夢を与えるような場であるべき。博物館の先生が何をやっているのか、この人はこんな面白い研究をしているのだ、というような情報をもっと積極的に発信すべき。

文化財課：学芸員の紹介などは数年前からホームページ上でも公開するようにしている。

委員：ただホームページに出してあるだけ、というのではなく、別の形でも何かできないか。イベン

トなどでの発信も必要かもしれない。

博物館：情報発信については、県立博物館ネットワークなどを含めて、不可欠であるが、その中で自館の「売り」である部分をアピールするような伝達手段を全館で模索している所である。また学校との連携についても、条例とまではいかないにしても文化財課、生涯学習課、指導課の3課で連携して、美術館博物館を活用して欲しいという通知を各校に出してもらうようなことを検討している。

委員：条例についての考えは素晴らしい。生涯学習課と文化財課などが共同でできたらよい。現代産業科学館も企業との連携については、かつては規制が厳しかったが、ここ5、6年はかなりやりやすくなった。現代産業科学館では「展示運営協力会」という組織もあり、大分スムーズにいくようになった。そこはお互いに本音で言い合って、まずは来館者のためになることを考えていくべきだろう。

委員：薄く広く効率性を求めるよりも、子供達の心にどう影響を残すかということが大事。説明をする学芸員の方の、「その分野が好き」という情熱は、ストレートに子供の心に伝わるものである。

委員：私も体験は重要だと思う。塾などは効率よく学習カリキュラムをこなしていくが、人間力や社会性といったものは地域の中での諸体験で養われると思う。博物館もその部分を担っていくもの。やはり学芸員の熱意という部分が重要。その意味で、学芸員も放出する一方ではなく蓄積する部分も必要。

委員：企業連携について、「協働」というのはお互いが利用するWin-winの関係だけではなく、お互いが一つの共通の目標を持って進んでいくことが大事な時代になっているのではないか。

(2) 各博物館の資料収集・保存活動と利活用について

(配布資料に基づき、各館の状況説明後、質疑応答)

委員：年にどれくらいの資料収集やデータベース化がなされているのか。

委員：資料の購入予算などはどれくらいか。

文化財課：資料の購入予算はない。

委員：また、研究活動の制約についても、ある程度自由にできるようになるとよい。中央博物館では科学研究費をとれるが他館は？

博物館：科学研究費は、以前はある程度館で自由に裁量できる部分があったが、今はそうはいかない。

また、中央博物館では科学研究費をとれる指定を受けているが、他館ではとれない。ただ、今は民間のファンドなども様々あり、そうしたものは利用できる。

委員：大勢学芸員がいると、専門性も幅が広く、それをまとめるのはご苦労があると思う。

委員：こんな研究をやっているんだ、すごいなあ、というような情報を発信してほしい。ネットワークとして、例えば県の文書館などでも情報を見られるような形を作ってほしい。

委員：専門的な人を対象とするのではなく、一般の方を対象とした展示をしてほしい。専門的な部分と一般向けの部分、「静と動」を使い分けてメリハリをつけることで、魅力的な博物館にしてほしい。

委員：資料管理について、博物館の市町村移譲などの方向があるが、県のレベルでないと守れないも

のもあるのではないか。今後の方針などはどうなっているのか。

文化財課：安房博物館、上総博物館については資料も含めてそのまま市に移譲した。心配されるような散逸はない。今後についても資料保管に関しては万全を期すつもりである。

委員：現代産業科学館のように民間企業にスポンサーになってもらえるような、人を呼べる企画が大事。

委員：資料についても、例えばお金に換算できるものとできないものを分けて、子供達に千葉県の上慢はこれなんだ、ここにしかないんだ、というような説明があるとよい。

委員：以前、中央博物館で解説していただいたような「車1台分の価格の蝶」のような話は分かりやすい。

委員：維持・管理という観点でいうと、中・長期的な収集戦略が必要。また関宿城博物館の説明で古文書の複製の話があったが、複製というのもタイミングがあって、その時でないといけないということがある。予算措置もある程度必要。

委員：保存と活用は矛盾する両面があると思うが、資料を分けて考えてはどうか。保存すべきものとはっておいて、ダブルで入手できるものなどは子供達にもある程度見せてあげてほしい。

委員：大人が目線ではなく、子供の目線で柔らかくかみ砕いてもらいたい。

博物館：資料収集については、実際問題として収蔵庫がもういっぱいという問題がある。収集にもメリハリをつけなければならない。ネットワークに関しては、写真や動画、現地で取材した録音など、展示に使える資料収集を考えてもらっている。

(3) 美術館の耐震改修工事について

美術館：工事は平成24～26年度の予定。これに関して、館内で5年後の美術館は何を目指すのかということをお話している。

委員：トイレなどの水回りについても是非使いやすいものと考えてほしい。

委員：新しいネットワークシステムを作り変えているとのことだが、自然と人文というような枠組みではなく、新しいシステムを早急に考えてほしい。